

## 令和 8 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月成魚調査速報

### ●実施状況

令和 8 年 5 月 25 日に成魚調査を実施した。調査当日は小潮で、干潮が 6 時 59 分、満潮が 12 時 38 分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は 1.4~2.9m であった。St.10 で赤潮が発生していた。

全地点においてハタテヌメリが出現したほか、St.35 においてヌタウナギが本調査で初めて出現した。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:41-11:06		11:00-12:00		12:03-13:00		13:00-13:50	
水深(m)	26.0		13.7		14.3		7.9	
天候	晴		晴		晴		晴	
気温(°C)	24.0		24.3		26.3		27.1	
風向/ 風速(m/sec)	-/0.0		-/0.0		-/0.0		S/0.1	
波浪(m)	0.1		0.1		0.1		0.1	
透明度(m)	2.9		2.1		1.6		1.4	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	20.1	15.5	21.4	16.7	22.8	16.2	24.3	17.6
塩分(-)	29.0	34.3	22.2	33.7	24.2	33.4	24.0	32.4
DO(mg/L)	9.0	5.5	12.3	4.4	12.4	1.6	11.8	2.8
DO飽和度(%)	118.3	68.6	158.8	55.7	166.3	20.2	162.3	35.3
pH(-)	8.4	-	8.5	-	8.5	-	8.6	-
水の臭気	なし	なし	なし	なし	微下水臭	なし	微下水臭	微下水臭
備考					下層で貧酸素状態 (DO:2mg/L 以下)が 確認された。			

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上 1m)。DO 飽和度は上層のみ計測。

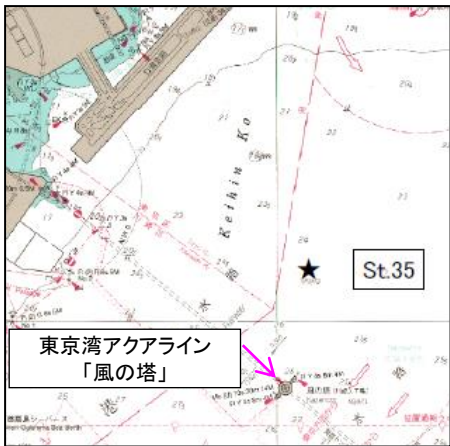
### ●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ハタテヌメリ(m) テンジクダイ(m) マコガレイ(c) メイトガレイ(r) ヌタウナギ(r)	ハタテヌメリ(c) マコガレイ(r) テンジクダイ(r) モヨウハゼ(r) メイトガレイ(r)	ハタテヌメリ(+) マハゼ(r) アカエイ(r)	ハタテヌメリ(r)
魚類以外 (目立った種)	シャコ(m) オウギゴカイ(m) クシノハクモヒトデ(m)	オウギゴカイ(m) チロリ科(m) クシノハクモヒトデ(c)	クシノハクモヒトデ(G) オウギゴカイ(m) チロリ科(c)	ウミサボテン(c) チヨノハナガイ(c) キセワタガイ科(+)
備考	上記の他、カタクチイ ワシ、モヨウハゼ、ケ ブカエンコウガニ等が 確認された。	上記の他、マアジ、チ ヨノハナガイ、キセワ タガイ、オキナガイ等 が確認された。	上記の他、スナヒト デ、イッカクモガニ、 ブンブク目が確認され た。	上記の他、チロリ科、 ウミイサゴムシ、クシノ ハクモヒトデ等が確認 された。

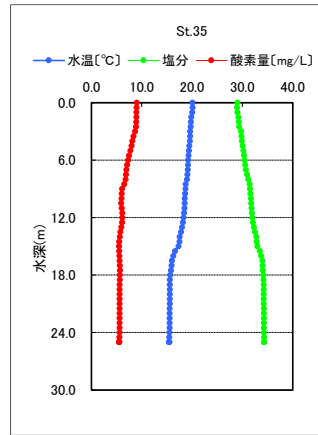
注)表中の( )内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St. 35  
 調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



やや深い砂泥底に生息する。似た形状のウナギやアナゴ(有顎上綱、魚類)とは全く別の仲間。本種は顎や脊椎がなく、ヤツメウナギと同じ無顎上綱に分類される。目が退化しているため、臭いで餌を確認する。腐肉食性。攻撃されると粘液を分泌する。

本調査では初出現となる。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



全長 14 cm ほど。雄の前部背びれにある軟条(軟らかいスジ)は糸状に長く伸びる。夏は湾中央のやや深い場所に生息し、秋から春にかけては湾奥にも分布するが、これには夏の貧酸素水塊発生が影響していると考えられている。産卵期は 2 月から 11 月。

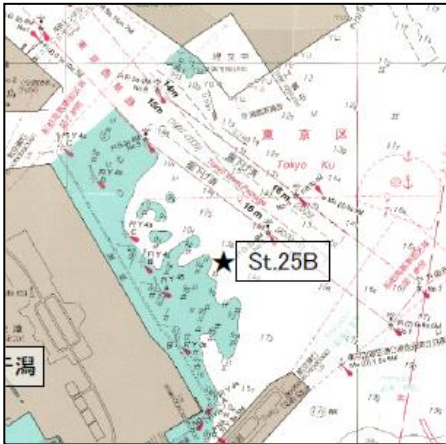


全長 8 cm ほどになる。体側に小さな青色の斑点が散在する。東京湾では、湾奥から湾中央にかけての水深 10~40m の砂泥底に生息する。

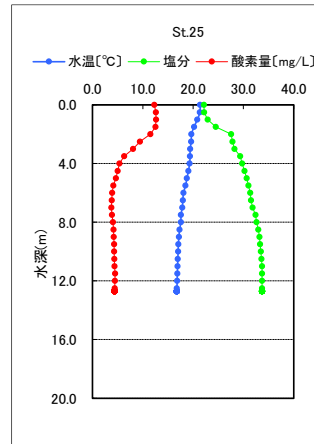


河口の汽水域や内湾の砂泥底に、大小 1 対の口を持つ U 字形の巣穴を掘って生活する。東京湾では水深 15~30m に生息し、他の水生動物を強大な捕脚を用い捕食する。

調査地点：St. 25  
調査地点位置



水質状況

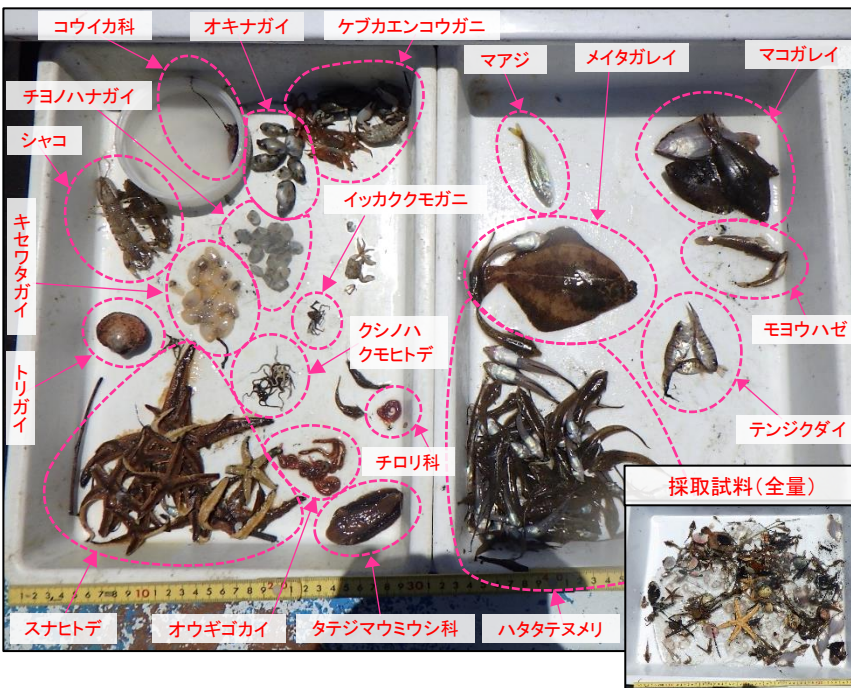


地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



東京湾には多種多様なカニ類が生息する。これらは魚類の重要な餌ともなっている。

- ① ケブカエンコウガニ
- ② イッカクモガニ
- ③ ヒメガザミ
- ④ サメハダヘイケガニ

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾では普通に見られるカレイの一種。全長 45 cm ほどまで成長する。水深 100m より浅い砂泥地に生息し、多毛類等を食べる。仔魚の時は左右に目がついているが、次第に左目が移動し、最後には体の右側に両目が揃う。

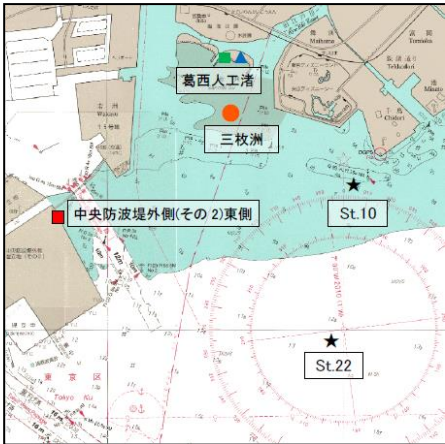


体長 20 cm ほどになる。水深 20~120m の砂泥底に生息し、多毛類等を食べる。名前の由来は、眼の間に棘があり、触ると痛いため(目痛鱈)とされる(諸説あり)。

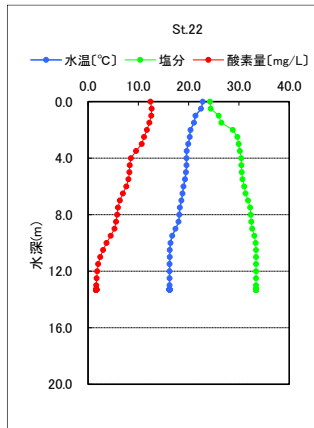


東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は 7 月から 10 月。親魚が卵を口の中にくわえて、ふ化するまで保護する習性を持つ。

調査地点：St. 22  
調査地点位置



水質状況

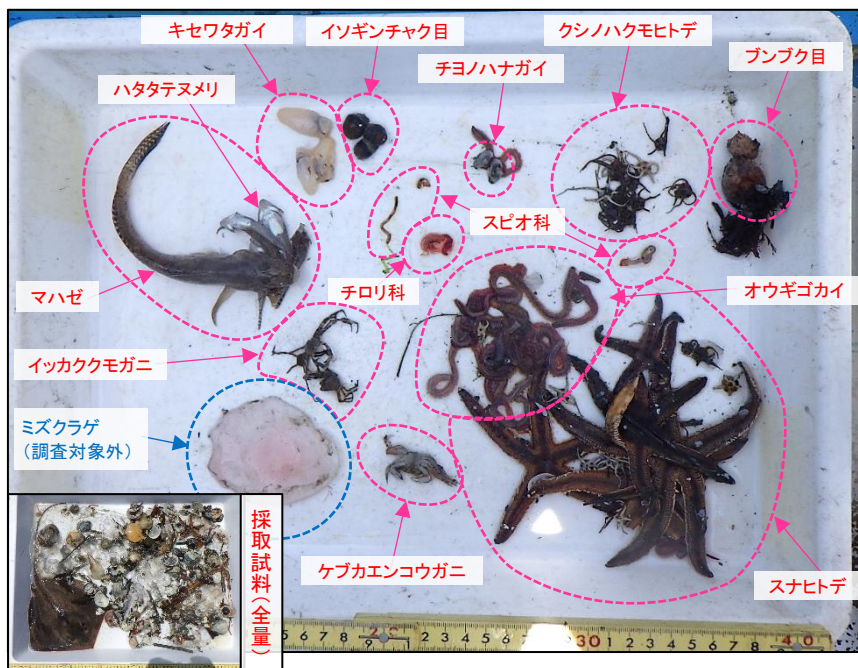


地点状況



北西側には東京ゲートブリッジがある。

採取試料



東京湾でよく見られる棘皮動物2種の違い	<b>クシノハクモヒトデ</b> 
<b>クシノハクモヒトデ</b> ・蛇尾綱 ・内臓は盤にすべて収まる ・クモのような動き	
<b>スナヒトデ</b> ・海星綱 ・内臓は腕部分にもある ・滑るように移動	 <b>スナヒトデ</b>

主な出現種 ※写真のスケール1目盛:1mm

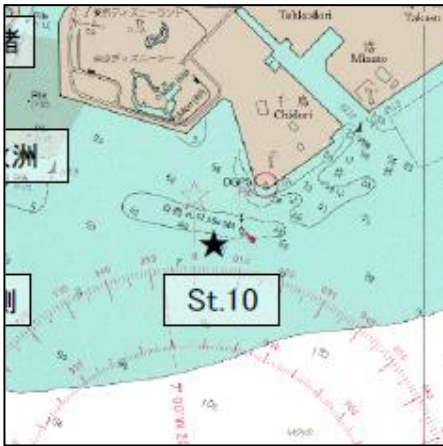


河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

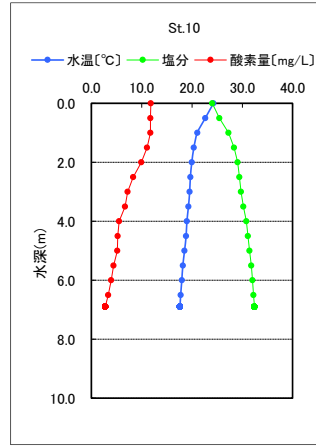
東京湾で最も普通に見られるエイの仲間。甲殻類や多毛類等を食べる。尾部にノコギリ状の棘(毒針)を持ち、刺されると危険。  
今回出現した個体は全長 62.7 cm、体盤長 25.5 cm、重量 1.1 kgであった。

砂泥底に生息する変わった形のウニ。普段は砂の中に潜っており、管足を用以デトリタスを食べている。上面の棘の下には5本の歩帯が花弁のように広がっている。

調査地点：St.10  
調査地点位置



水質状況



地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



1本1本が多数のポリプが集めた群体性の刺胞動物。夜行性で、昼間は身を縮めて海底に潜っているが、夜になると身を伸ばして水中で各ポリプが触手を広げ、その姿がサボテンのように見えることからこの名がついた。また生物発光し、刺激を受けると緑色の光を放つ。

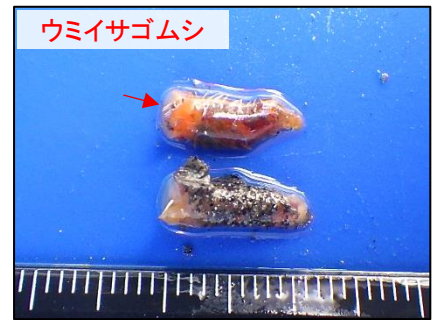
主な出現種 ※写真のスケール 1目盛:1mm



体長 4 cmほどで、内湾奥の干潟周辺から水深 100m の砂泥底に生息する。一見、貝殻が見あたらないため貝とは違う生物に思えるが、半透明の薄い半球状の貝殻が内在する。肉食性。



内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。貧酸素状態でも酸素がある期間に短期的に発生する。



砂粒を集めて円筒状の棲管を作り、そこに潜むゴカイの仲間。頭部の先に金色の毛のような針が生えているのが特徴。